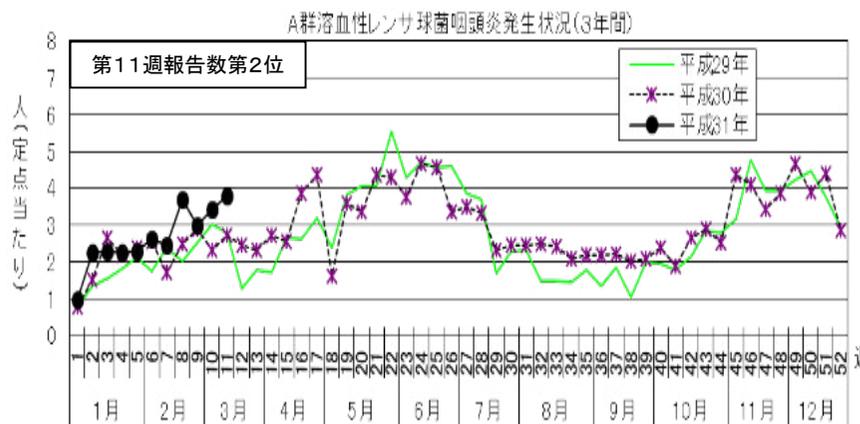
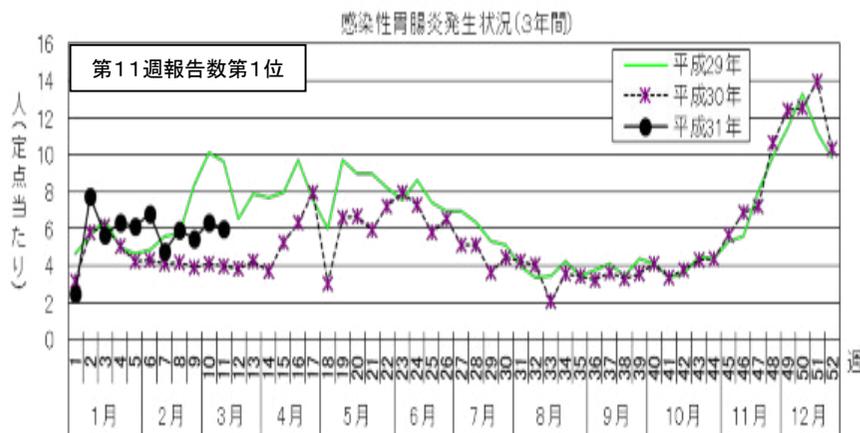


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成31年3月1日（月）～平成31年3月17日（日）〔平成31年第11週〕の感染症発生状況

第11週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.00人と前週（6.32人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.78人と前週（3.43人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.22人と前週（0.33人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



気をつけたい感染症～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎～

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、学童期の小児を中心に、春から初夏（5月～6月）及び冬季（11月～12月）に流行がみられる細菌感染症です。

川崎市では、平成31年2月下旬以降、患者報告数が例年よりやや高いレベルで推移しており、第11週（3月11日～17日）の定点当たり患者報告数は3.78人と2週連続で増加しました。特に川崎区、高津区、多摩区からの報告が多くなっています。例年、初夏に流行のピークを迎えるため、今後も患者数の増加が予想されます。感染を広げないためにも予防対策を徹底しましょう。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

感染経路：接触感染、飛沫感染

潜伏期間：2～5日間

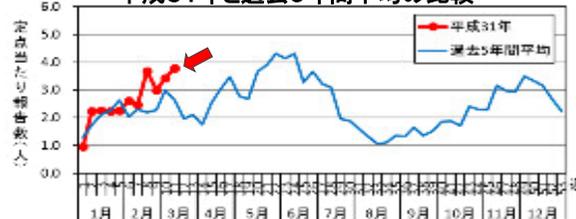
主な症状：突然の発熱、全身倦怠感、咽頭痛、
 莓舌（イチゴのように赤くポツポツした状態）、
 体や手足に小さくて紅い点状発疹

予防対策：患者との濃厚接触を避ける、手洗い等

早めに医療機関を受診しましょう！

治療には抗菌薬が有効です。肺炎、リウマチ熱、急性糸球体腎炎等の合併症を防ぐためにも、早めに医療機関で診断を受けて、主治医の指示どおりに薬を服用しましょう。なお、薬は最後までしっかり飲むことが大切です。

川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況
 ～平成31年と過去5年間平均の比較～



川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎
 分布マップ(平成31年第11週)

